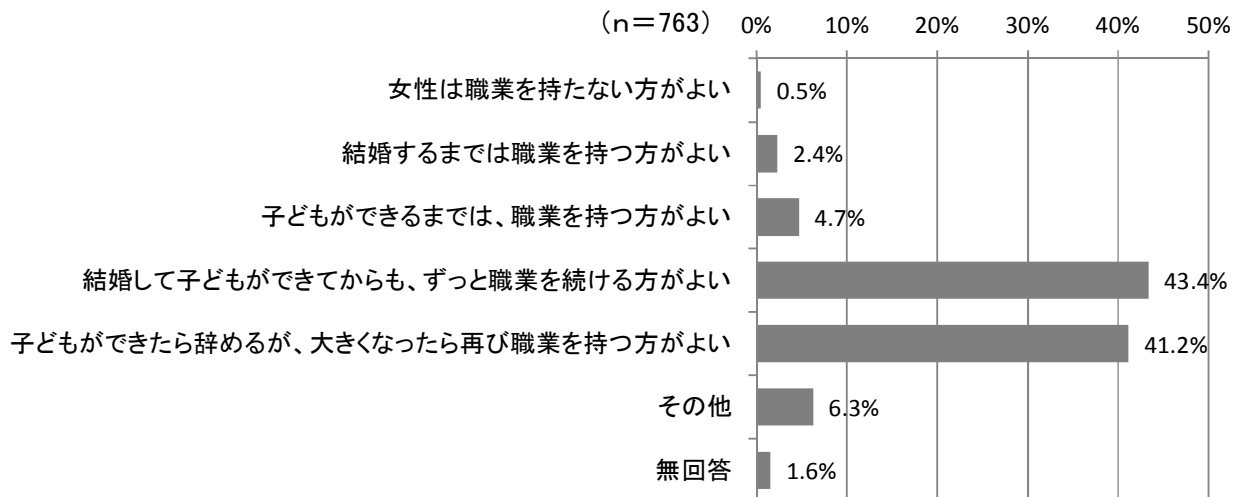


6. 就労について

問 1 4. あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。
(1つだけに○)

「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」の 43.4%と最も多くなっており、続いては、「子どもができたなら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した方が 41.2%となっています。

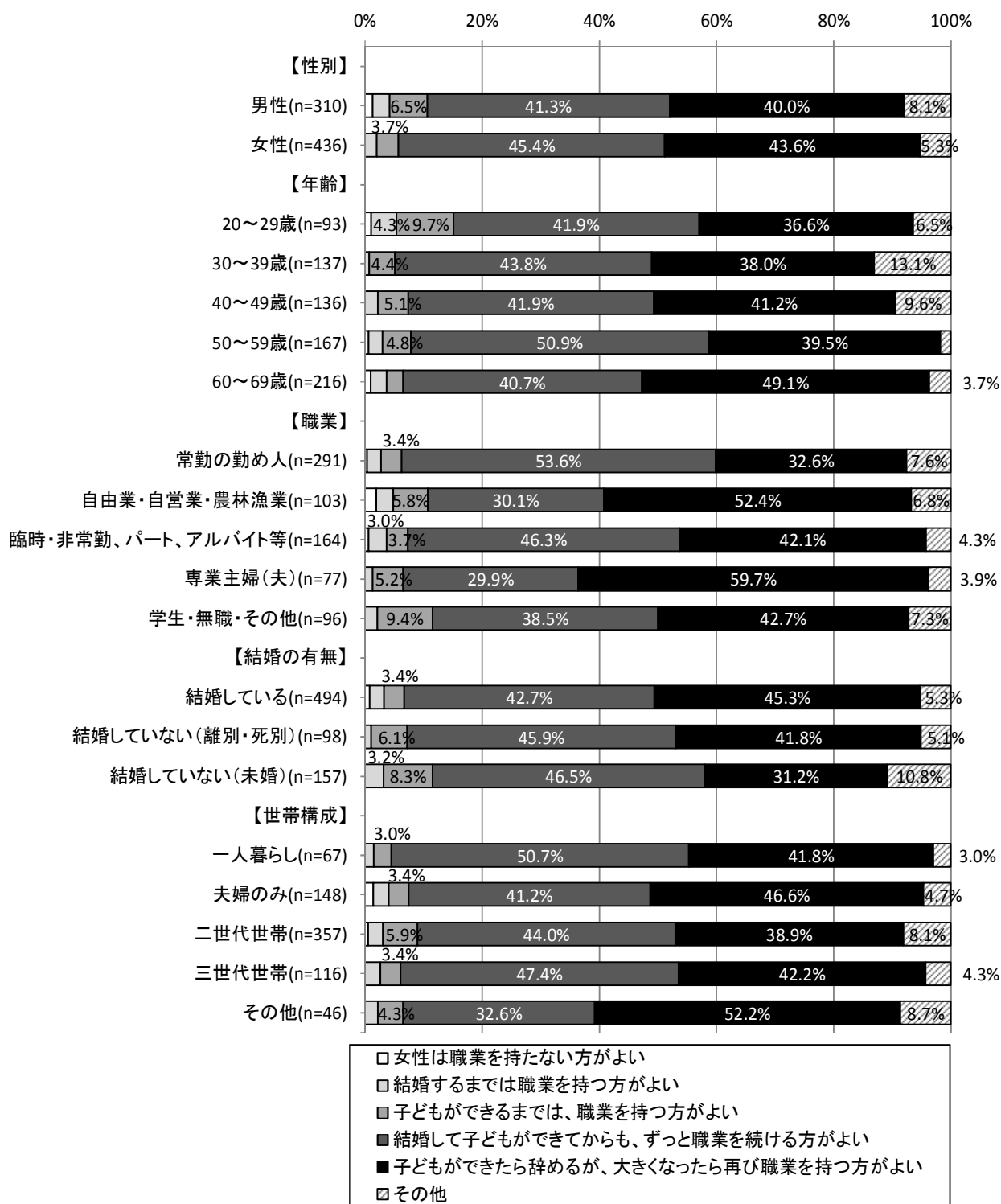


<その他の回答>

- 性差ではなく個々人で考えるべき。
- 育児の場の有無、互いの収入や職の環境によって話し合っ決めて決めるのがよい。
- 人が働くのは当たり前だ。女性とか男性とかの性差でとらえるのはいかなものか。
- 本人の意志と環境。
- 各自の環境によると思います。
- じゃないと男女平等はあり得ない。今の時代じゃ無理です。
- 男女問わず人による。
- したければ仕事をすればよい。
- 女性の自由意思で良い（個々の）。
- その場かその時の状況でいいと思う。
- サポートがあるなら、4。
- 個人個人が好きなようにすればいい。
- 各々の家庭の事情により、一口では言えない。決められない。
- 女性の希望通りにするのがよい。
- ケースバイケースなので「～がよい」という考えは持っていない。
- 個人の意見を尊重すべきだと思う。（女性が社会に出ることには賛成）
- 男女区別はない。
- できる範囲(パート)でも何か仕事をした方がよいと思う。

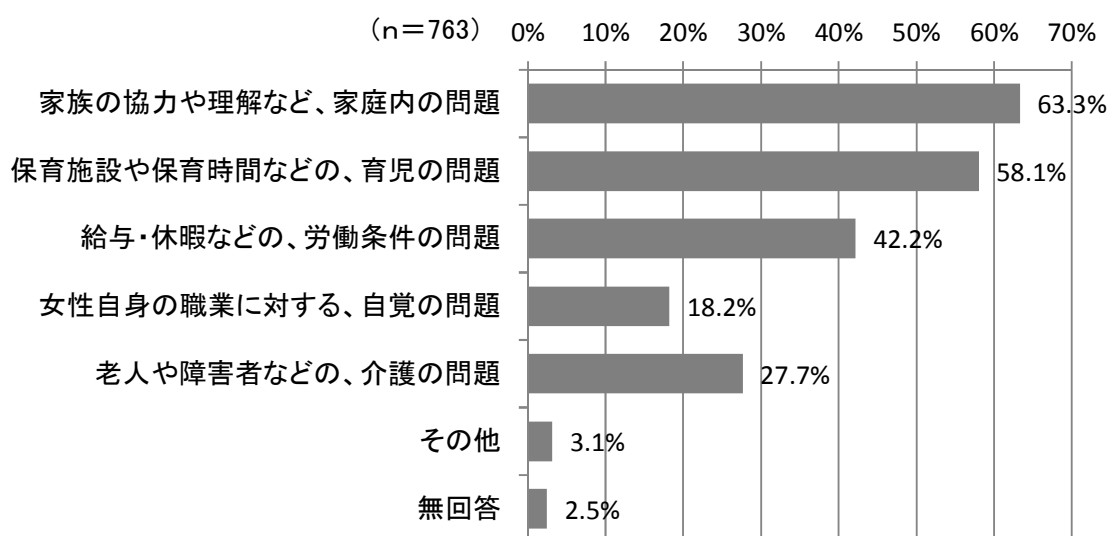
問 1 4 . 一般的に女性が職業を持つことについて (属性別)

一般的に女性が職業を持つことについては、年代で「50～59 歳」で「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。



**問 15. あなたは、女性が仕事をしていると、どのような問題があると思いますか。
(〇はいくつでも)**

「家庭の協力や理解など、家庭内の問題」が 63.3%と最も多く 6 割以上の方が回答しています。続いては、「保育施設や保育時間などの、育児の問題」の 58.1%、「給与・休暇などの、労働条件の問題」の 42.2%となっています。

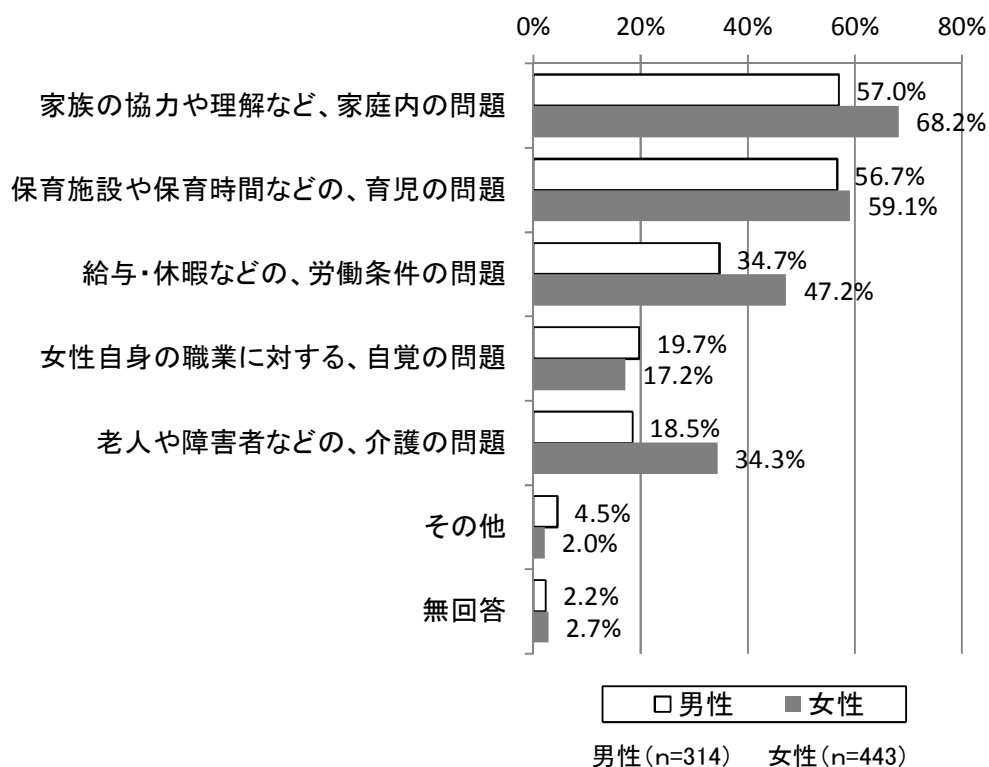


<その他の回答>

- どこにでも居ると思いますが、女性のやっかみやいじめが有るので辛抱が必要。働くのは家計を少しでも楽にと同じなのに・・・特に女性は大変ですね。
- 子育てを人まかせにすることが多くなり、せつかくの子育ての機会を楽しめなくなってしまう。
- 育児は流れ作業ではありません。生んだ親が愛情を注いでやるべき(育て上げる事)女性が仕事を持てば、子供が戦争の中で育つような物だと思う。
- 女性は仕事をしない方が良い家事が充分に出きる。
- 今のままではどれも女性の負担が大きいようです。
- 自分の健康(体力、気力)。
- その場にたたないと分からない。
- 「女性が仕事をすると問題が発生する」のであればそれは男女差別なのでは？

問 15. 女性が仕事することの問題点 (男女別)

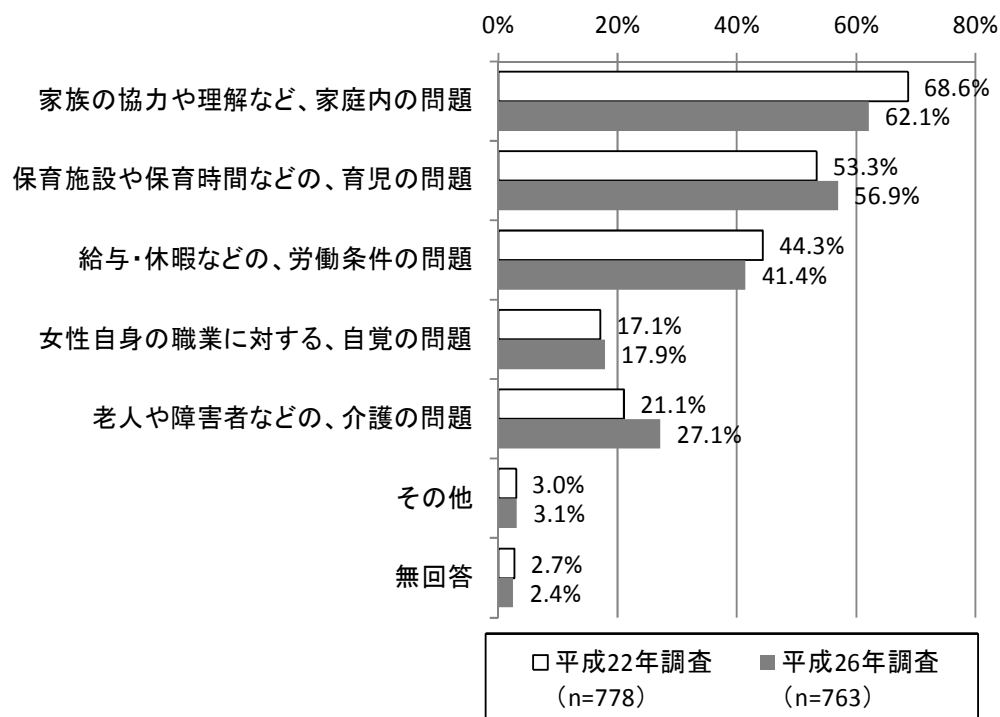
男女の回答に差のあるものは、「老人や障害者などの、介護の問題」で男性よりも女性の方が 15.8 ポイント高い回答となっています。同様に「給与・休暇などの、労働条件の問題」で 12.5 ポイント、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」で 11.2 ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。



問 15. 女性が仕事することの問題点 (前回調査との比較)

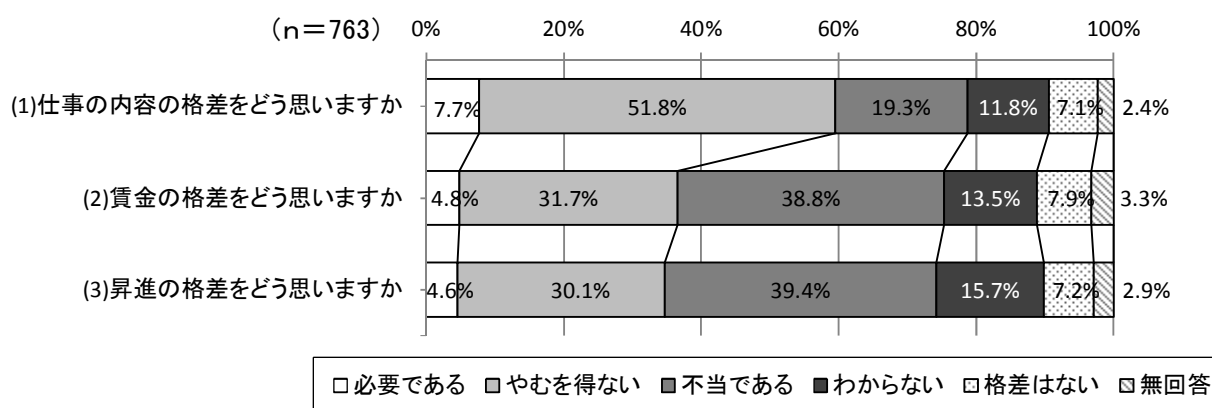
前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「老人や障害者などの、介護の問題」が6.0ポイント高くなっています。

また、回答の割合が低くなっている項目は、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」が6.5ポイント低くなっています。



問 16. あなたは、仕事の上で一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思いますか。(それぞれ1つに○)

仕事の内容格差は、「やむを得ない」の回答が 51.8%で約半数の回答となっています。また、賃金の格差と昇進の格差では、ともに「不当である」と回答した方が約4割で多くなっています。

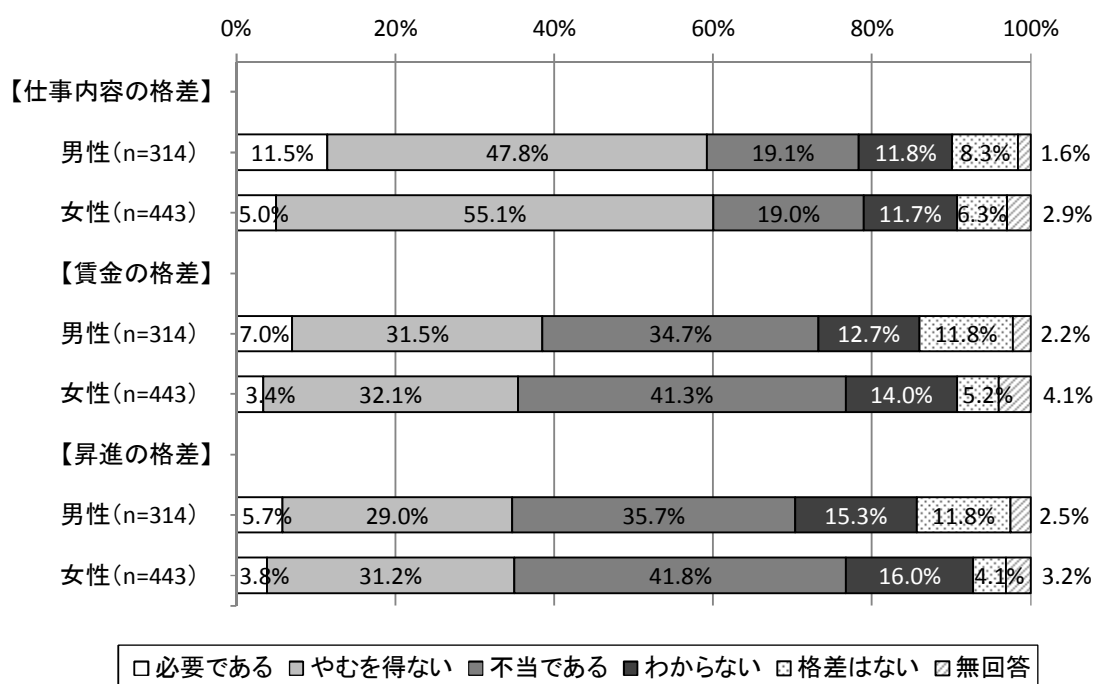


問 16. 仕事上の男女の立場 (男女別)

男女の回答に差のあるものは、【仕事内容の格差】で「必要である」が女性より男性の回答が高く、「やむを得ない」が男性より女性の回答が高くなっています。

【賃金の格差】では、「必要である」が女性より男性の回答が高く、「不当である」が男性よりも女性の回答が高くなっています。

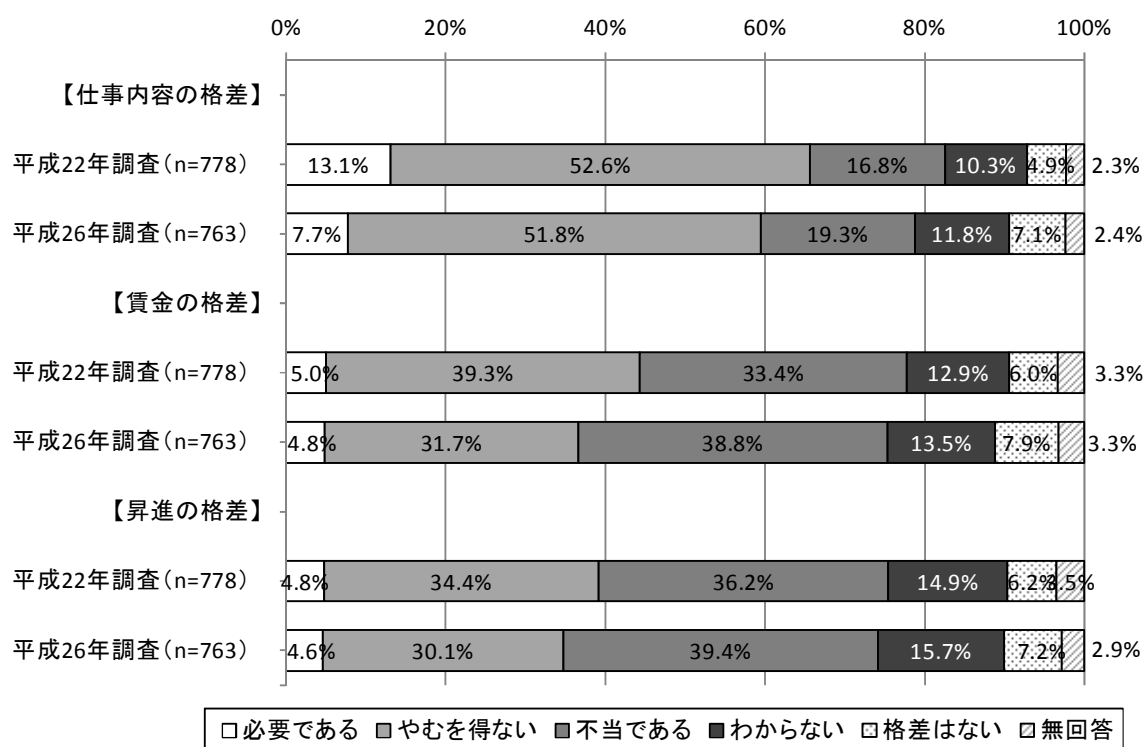
【昇給の格差】では、「格差はない」が女性より男性の回答が高く、「不当である」が男性よりも女性の回答が高くなっています。



問 16. 仕事上の男女の立場（前回調査との比較）

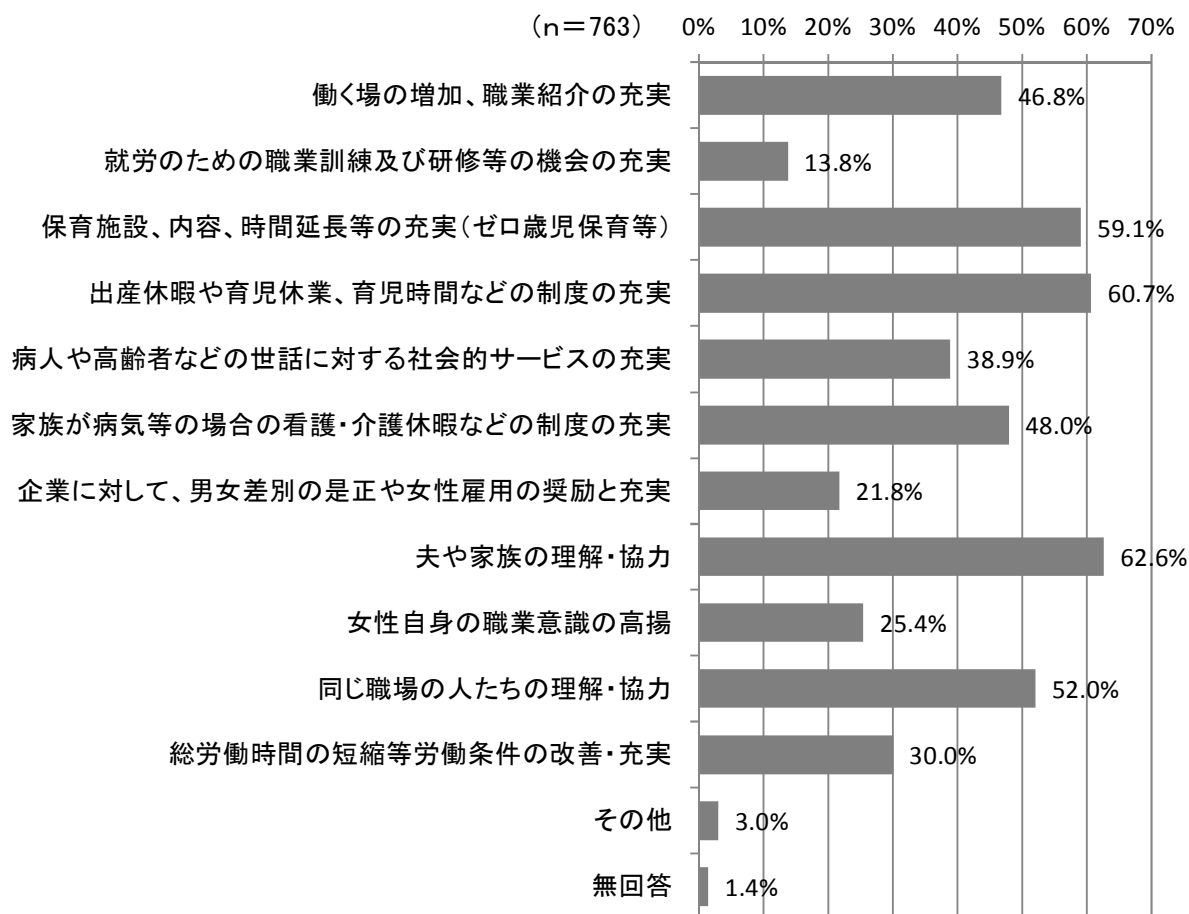
前回調査より【仕事内容の格差】で「必要である」の割合が低く、「不当である」の割合が高くなっています。

【賃金の格差】と【昇給の格差】では、「やむを得ない」の割合が低く、「不当である」の割合が高くなっています。



**問 17. あなたは、女性が働き続けるために特に必要なことは何だと思いますか。
(〇はいくつでも)**

「夫や家族の理解・協力」と回答した方が 62.6%と最も多くなっており、続いては、「出産休暇や育児休業、保育時間などの制度の充実」の 60.7%、「保育施設、内容、時間延長の充実（ゼロ歳児保育等）」の 59.1%となっており、この 3 項目が約 6 割の回答となっています。



＜その他の回答＞

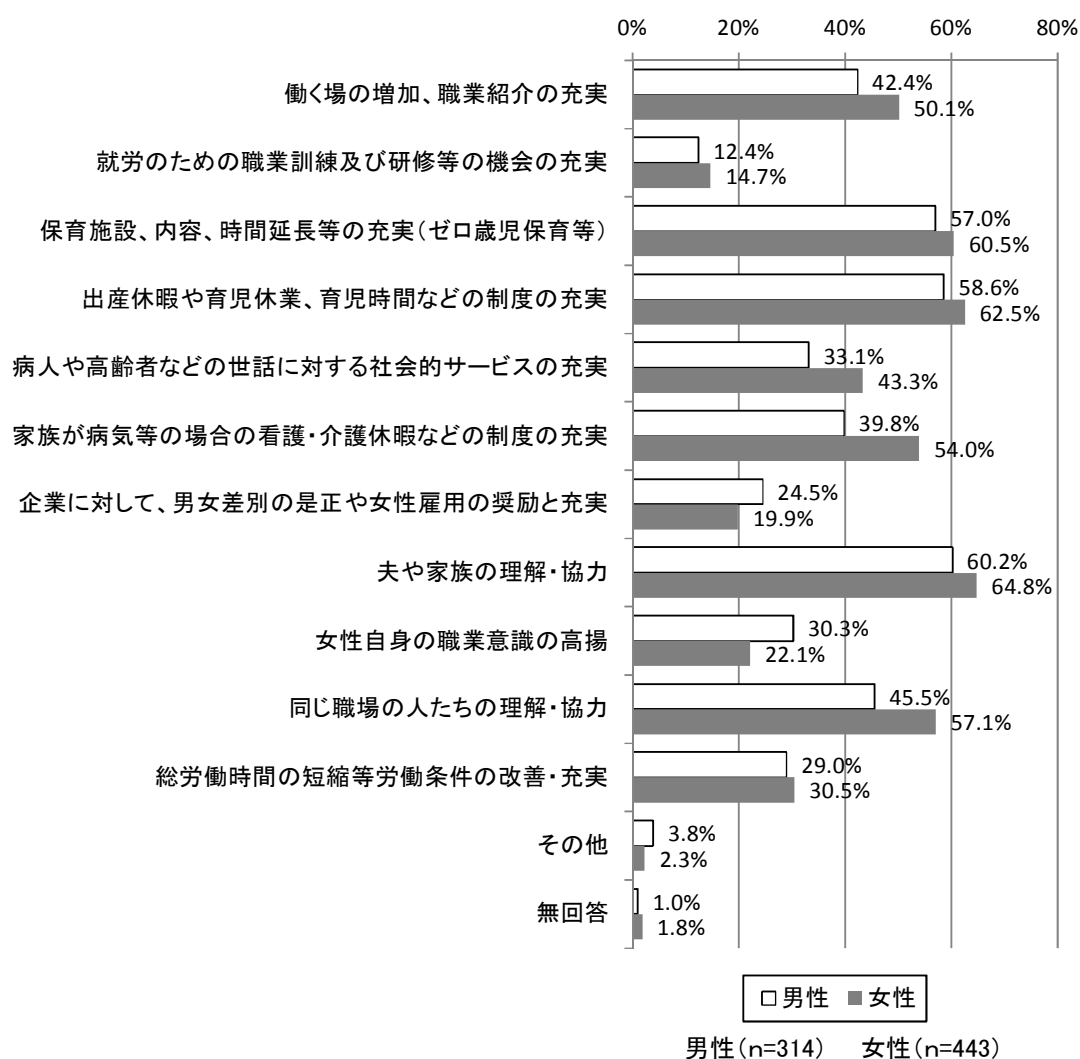
- 夫の両親の理解と育児の協力。
- 女性にこだわらず生涯働ける環境を作るべき。
- 女性の一番の仕事は家庭を守り子供の教育しつけなど、産まれてから巣立ちするまでの間たくさん愛情をもって育てることだと思うので、妻の立場、母の立場であることが一番大切だと思います。その上で仕事をするので、その優先順位が保たれる仕事につくことが望ましいと思います。それ故仕事。賃金・昇進の格差はやむを得ないと思います。
- すべて男性にもあてはまります。男性も家庭(自分の生活)が大切だという意識が低すぎます。仕事は大切ですが、仕事人間になりすぎないように男女が力を合わせて家庭を作っていくという思いを強くしないと難しいのでしょうか。

- 職業に貴賤がある事を周知すべき。
- 意識が高いのは一部の女性だけ。
- 正社員での求人。
- 育児で休みがちになる事に対する会社の理解。
- 女性が外で働き、男性の職がなくなる。子供を産めるのは女性だけ、にもかかわらず女性を外で働かせ、充実感を得させようとする社会。20代～30代前半で仕事に充実感があるうちは、子供など産む選択などしないものです。仕事に虚しさを感じる頃には、妊娠のタイムリミットも近付き、焦っても遅い。「働き続ける」とあるが、女性を外で働かせて、どういう結果につながったのか、昔と比べて考えてほしいです。
- 国レベルで女性の社会進出を支援し、男女平等が人間の基本であることをしっかりと教育すること。
- 特に育児時間と同様に介護時間なども充実されるとよい。
- 働き続ける必要はない。

問 17. 女性が働き続けるために必要なこと (男女別)

男女の回答に差のあるものは、「家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実」で男性よりも女性の方が 14.2 ポイント高い回答となっています。同様に「同じ職場の人たちの理解・協力」で 11.6 ポイント、「病人や高齢者などの世話に対する社会的サービスの充実」で 10.2 ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。

また、女性より男性が高い回答は、「女性自身の職場意識の高揚」で 8.2 ポイント高くなっています。



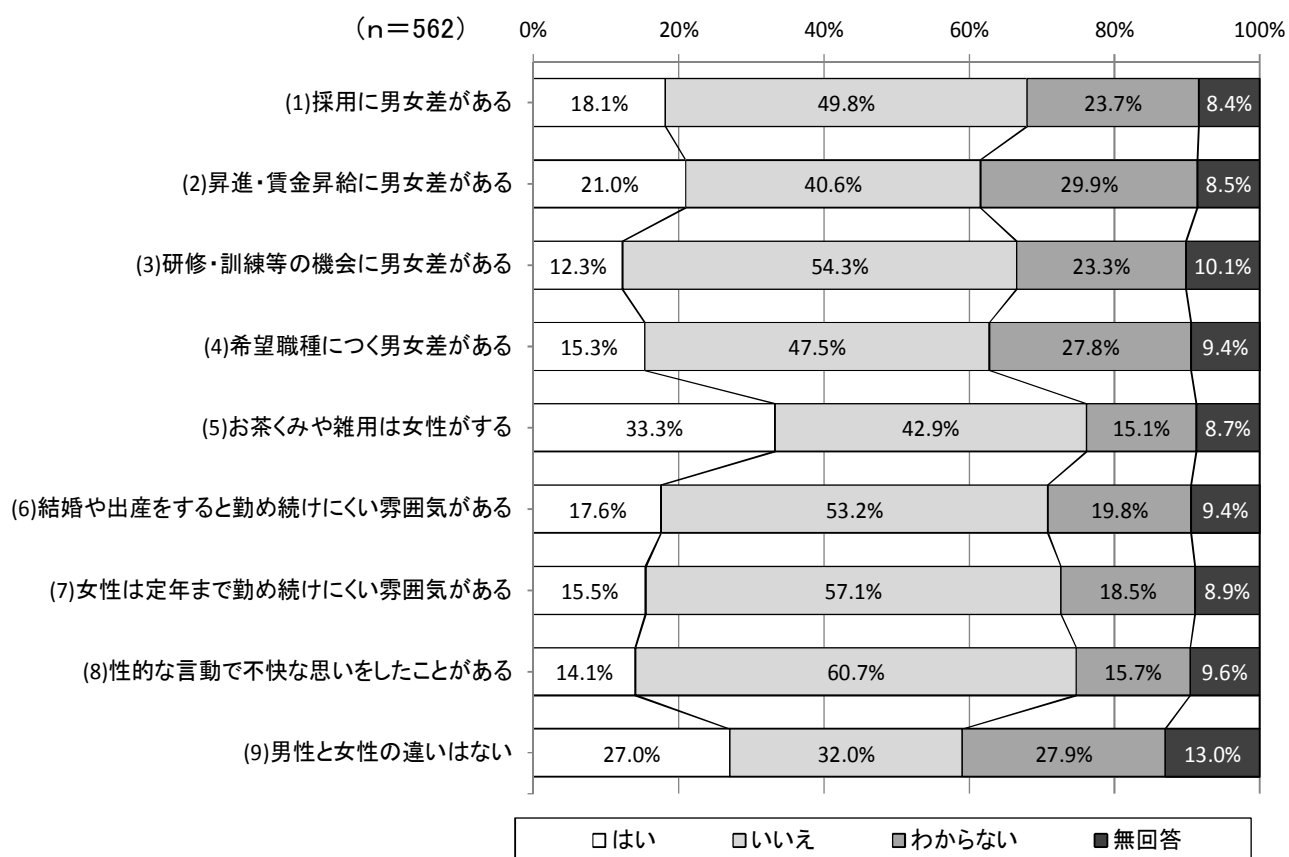
問 18. 【現在、働いている方に伺います】

あなたの職場では、次のようなことがありますか（それぞれ1つに○）

「はい」という回答が多い項目としては、「お茶くみや雑用は女性がする」が 33.3%と最も多く、続いて「昇進・賃金昇給に男女差がある」の 21.0%、「採用に男女差がある」の 18.1%となっています。

一方、「いいえ」という回答が多い項目は、「性的な言動で不快な思いをしたことがある」が 60.7%と最も多く、続いて「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」の 57.1%、「研修・訓練等の機会に男女差がある」の 54.3%、「結婚や出産をすると勤め続けにくい雰囲気がある」の 53.2%となっています。

また、「男性と女性の違いはない」の項目では、「はい」が 27.0%、「いいえ」が 32.0%となっています。



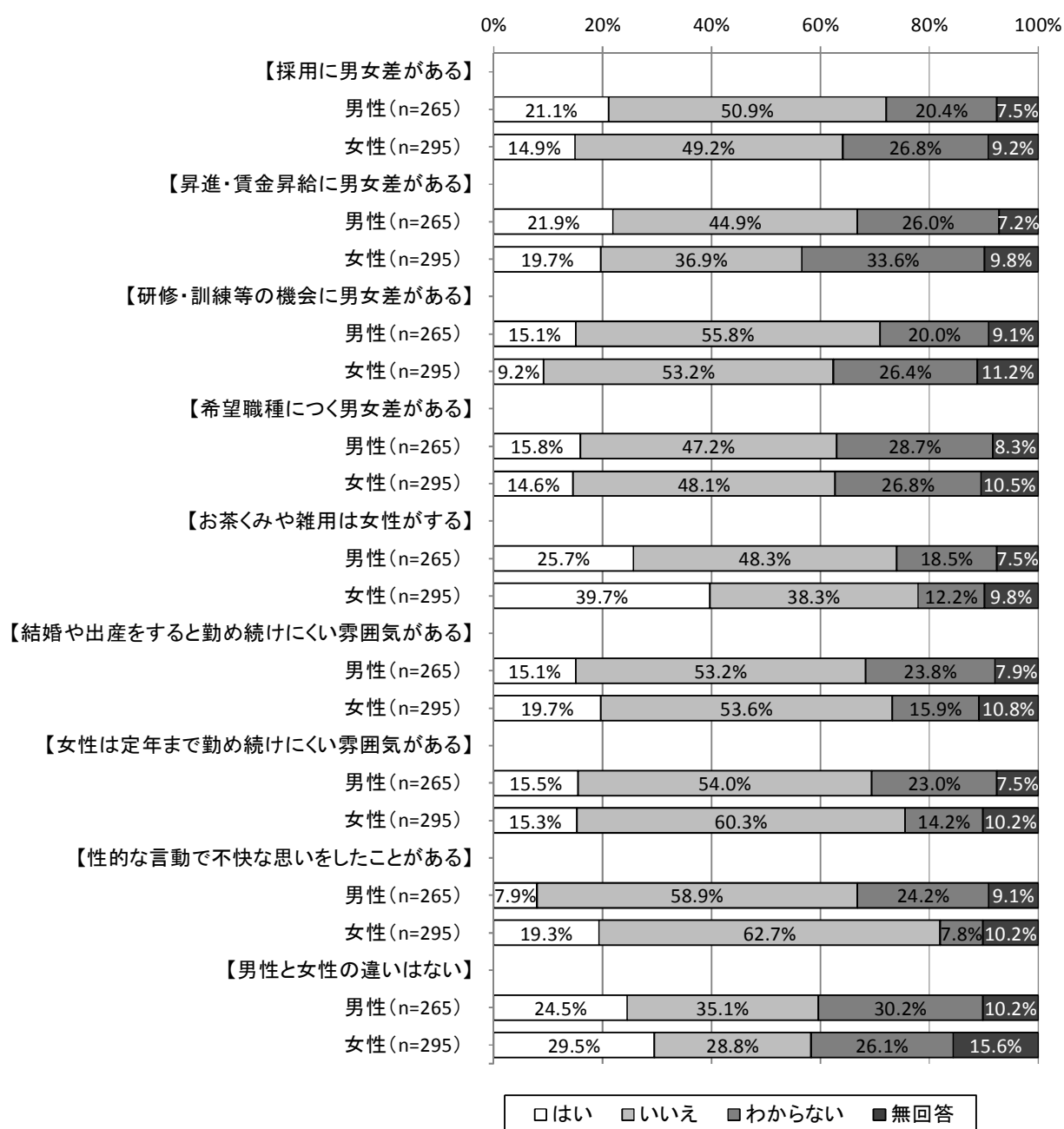
<その他の回答>

- 農業なので職場のことはわからない。
- 業務内容で逆差別があり、女性がシフトに入らない割りに男性職員の採用数が少ない。
- パート、パートの連続ですのできちとした事がわかりません。
- 無識であり答えようがない。
- 長時間労働があるので育児していると勤務するのが難しそう。
- 人（能力）を見る。
- 体力面の違いを、男女差にするのは、まちがいだと（時間外労働をする、しないの差別は？）
思う。
- 意見が分かれると女の意見を必ず取る。
- 重い物を扱う作業は、どうしても男性になる。
- 仕事ができないのに男というだけで給与が高いのが不満。

問 18. あなたの職場の状況 (男女別)

男女の回答に差のあるものは、【お茶くみや雑用は女性がする】で男性よりも女性の方が「はい」と回答している割合が 14.0 ポイント高くなっています。同様に【性的な言動で不快な思いをしたことがある】でも「はい」が 11.4 ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。

また、女性より男性の「はい」が高い回答は、【採用に男女差がある】や【研修・訓練等の機会に男女差がある】となっています。

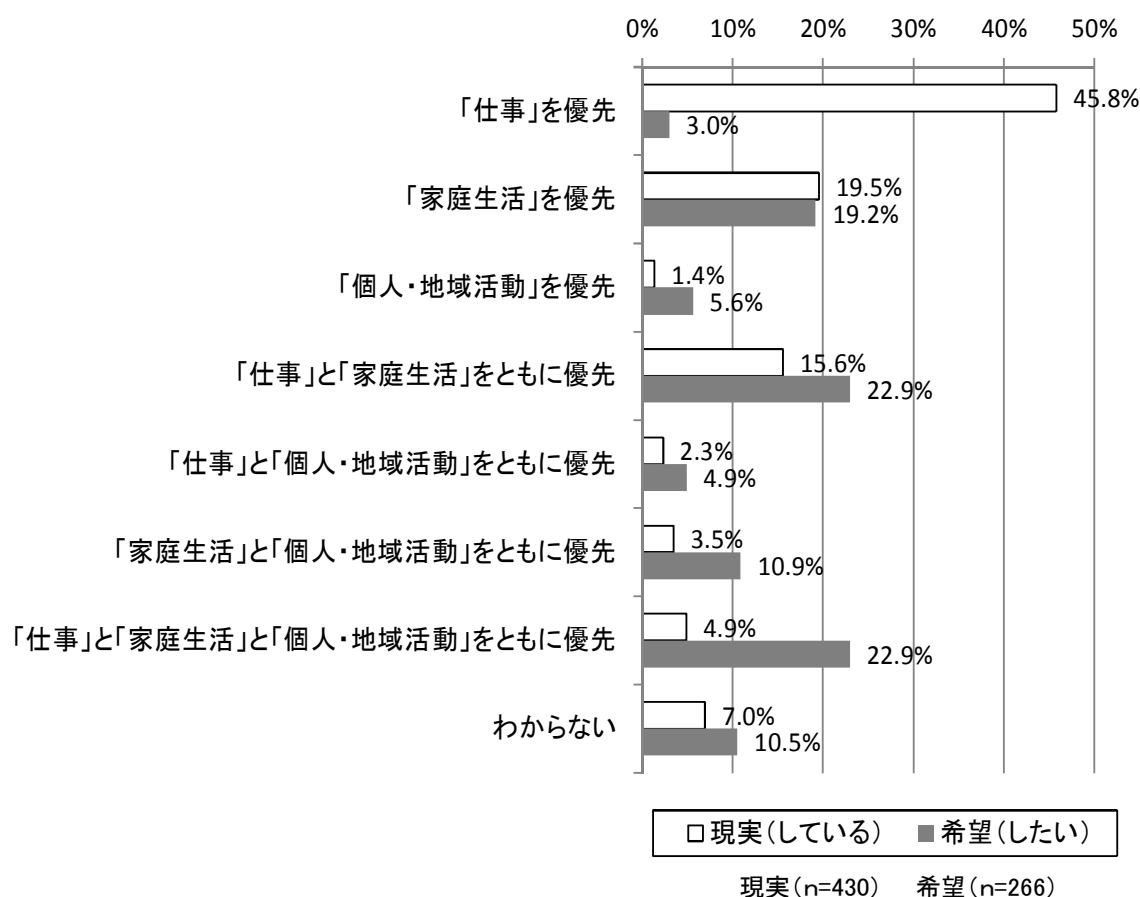


問 19. 生活の中で、「家庭生活」、「仕事」、「個人・地域活動（趣味・町内会の活動・ボランティア活動など）」の優先度について、あなたの現実と希望に最も近いものを選んでください。（現実と希望の「1～8」それぞれについて1つだけに○）

現実では、『「仕事」を優先』と回答した方が 45.8%と最も多くなっており、続いては、『「家庭生活」を優先』の 19.5%、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の 15.6%となっています。

また、希望では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』と回答した方が同数の 22.9%と多くなっており、続いては、『「家庭生活」を優先』の 19.2%となっています。

現実と希望の差が大きいものについては、現実には『「仕事」を優先』してしまうが、希望はほとんどない回答となっています。一方で、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』では、現実には少ないですが、希望の割合が高くなっています。

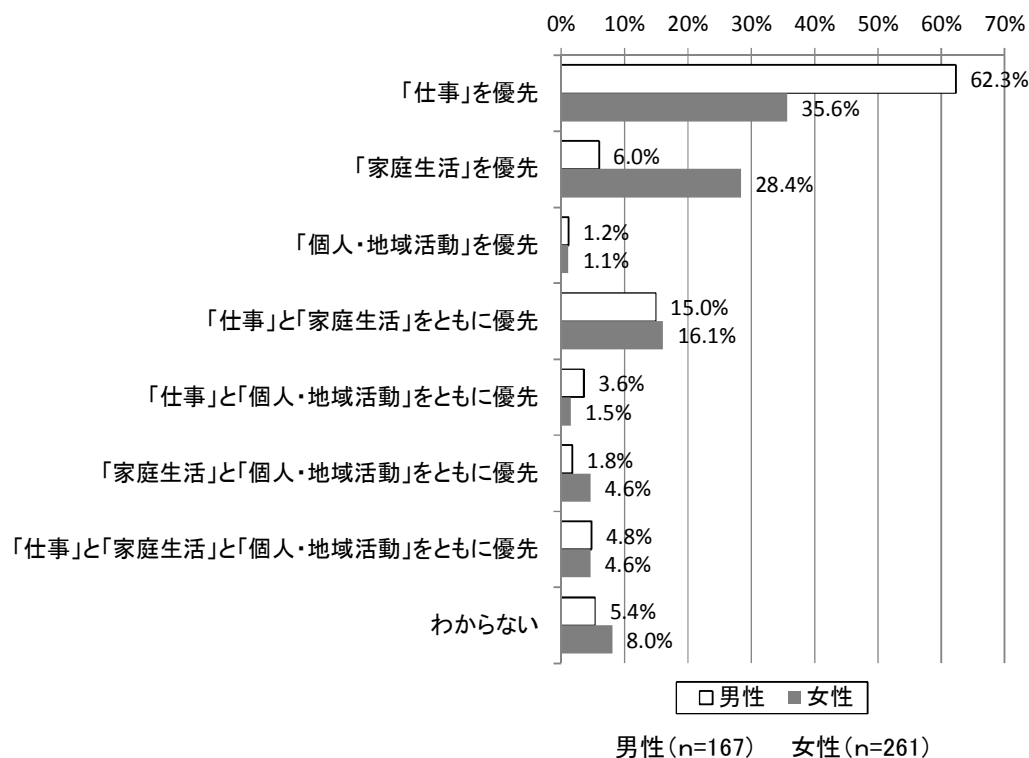


※ 問 19 は、現実と希望のそれぞれの項目で 2 つ以上に回答した無効回答が多いため、無効回答を除いて集計をしています。

問 19. 生活の中の優先度の 【現実】 (男女別)

現実では、男女の回答に差のあるものは、『「仕事」を優先』が女性よりも男性の方が 26.7 ポイント高くなっています。

また、男性より女性の割合が高い回答は、『「家庭生活」を優先』が 22.4 ポイント高くなっています。

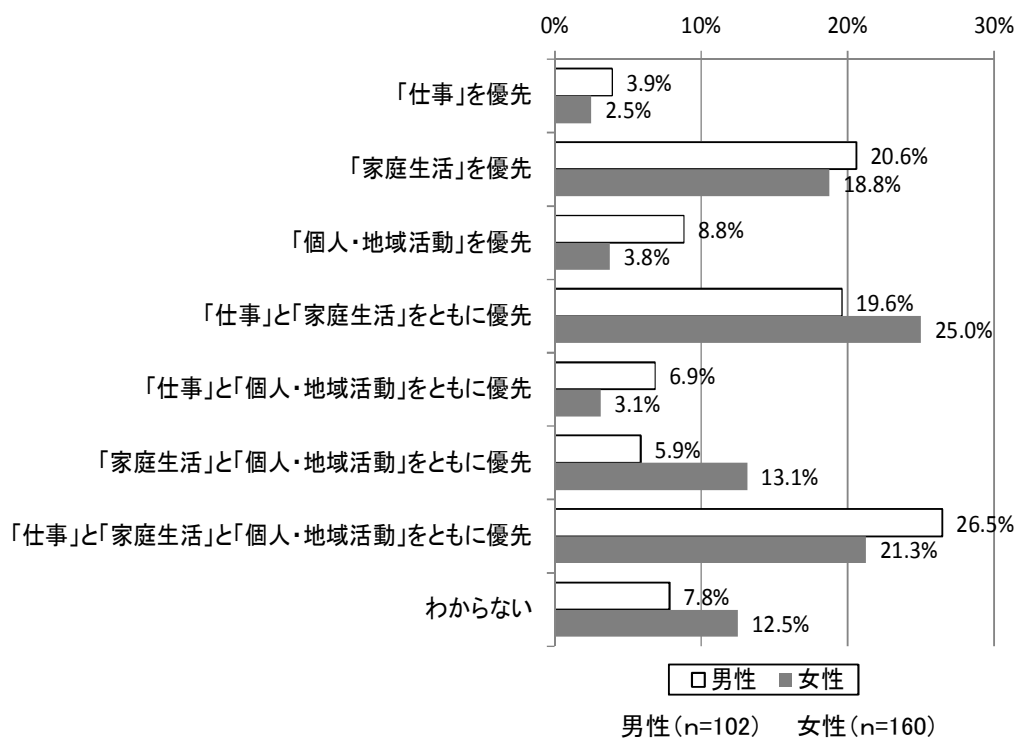


※ 問 19 は、現実と希望のそれぞれの項目で 2 つ以上に回答した無効回答が多いため、無効回答を除いて集計をしています。

問 1 9 . 生活の中の優先度の 【希望】 (男女別)

希望では、男女の回答に差のあるものは、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』が女性よりも男性の方が 5.2 ポイント高くなっています。

また、男性より女性の割合が高い回答は、『「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』が 7.2 ポイント、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が 5.4 ポイント高くなっています。



※ 問 1 9 は、現実と希望のそれぞれの項目で 2 つ以上に回答した無効回答が多いため、無効回答を除いて集計をしています。